



今回は、自閉症スペクトラム障害/自閉スペクトラム症について、紹介していきます。

自閉症スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder: ASD) とは

社会的コミュニケーションの困難さ、限定された反復的で常同的な行動、感覚過敏や鈍感さを主症状とし、発達初期からみられる発達障害の一つです。

(1) DSM-5 (米国の精神疾患の診断・統計マニュアル第5版) における診断基準

A. 社会的コミュニケーションの領域

- ① 対人的、情緒的関係に困難がある
- ② 非言語的コミュニケーションを用いることが困難
- ③ 人間関係を発展させ、維持することが困難

3つ全てにあてはまる

B. 限局された行動・興味の領域

- ① 常同的または反復的な行動 (玩具を1列に並べる、単調な常同行動、反響言語など)
- ② 同一性への固執 (小さな変化に対する極度の苦痛など)
- ③ きわめて限定された興味 (一般的ではない物への強い愛着または没頭)
- ④ 感覚刺激に対する異常反応 (特定の音や触覚に対する過敏さ、または鈍感さ)

少なくとも2つが認められる



→「社会的コミュニケーション」と「限局された行動・興味」の両方に困難を生じ、それらの困難が早期から出現し、社会的活動に支障がある場合にASDと診断されます。

(2) 文部科学省による自閉症及び高機能自閉症の定義

【自閉症の定義】

自閉症とは、3歳位までに表れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害であり、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

DSM-5では、3歳以前という発症年齢を撤廃し
発達初期に存在しているとなりました。

【高機能自閉症の定義】

高機能自閉症とは、3歳ぐらいまでに表れ、他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいう。また、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

(3) ASD の人の認知特性

◇思考の柔軟性の問題

こだわり, 変化への弱さ

【配慮】

- ・生活, 学習, 活動の見通しを明示する。
- ・体験的に学べると考えず, やり方, ルールを教える(遊び方のルールなど)。
- ・独自の感じ方や理解の仕方を否定しない。

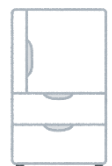
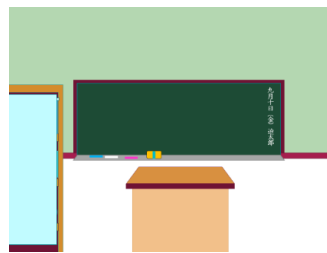


◇選択的注意の問題

情報量が多いと何をみたらよいのかが分からなくなってしまう

【配慮】

- ・余分な刺激を減らすよう, 環境を調整すること
- ・刺激のどこに注目すればよいのかが分かりづらいので, 情報の整理と合わせ, 大事なところだけをシンボル化することも理解することにつながる。



東北福祉大学 准教授 黄淵熙 氏「発達障害のある子どもの認知及び心理特性について～問題行動とその対応～」講演会より

(4) ASD の人の得意・不得意と支援の方法

不得意(弱み)	得意(強み)
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を聞いて理解すること ・抽象的で曖昧なことを理解すること ・経験していないことを想像すること ・見通しがもちににくいこと ・全体の意味を把握すること ・幅広くいろいろなことに興味をもつこと ・応用したり臨機応変に対応したりすること 	<ul style="list-style-type: none"> ・目で見て理解すること ・具体的ではっきりしたことを理解すること ・経験したことを正確に記憶すること ・見通しがあれば最後までやること ・細かい部分に注目すること ・興味もあることに対する集中力 ・学習したことはきちんとできること



→強みを生かした支援を行っていきましょう

- 話し言葉より視覚的に伝える
- 具体的に伝える
- 経験したことの無いことは視覚的に予告する
- 見通しが分かるようにする
- 注目するところを明確にする
- 興味のあることを活用する など



10・11月の相談件数について

■ 電話相談 43 件 ■ 訪問相談 13 件 ■ 学校見学 2 件

そよかぜ相談では、発達や就学に関する相談を受け付けております。お電話にてお申し込みください。

